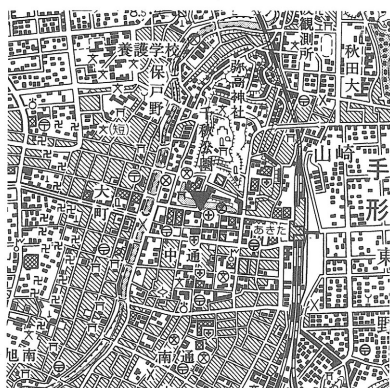


## 秋田・久保田城跡くぼたじょう（中土橋地区）

- 1 所在地 秋田市千秋明徳町
- 2 調査期間 二〇〇三年（平15）五月～七月
- 3 発掘機関 秋田県埋蔵文化財センター
- 4 調査担当者 五十嵐一治
- 5 遺跡の種類 城郭跡
- 6 遺跡の年代 一七世紀初～一九世紀
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



（秋 田）

久保田城跡は、秋田県の沿岸中央部に位置し、秋田平野上に独立丘陵状を呈する千秋公園台地（久保田神明山）と周辺の低地を含む一帯を選地している。久保田

城は常陸国から転封された佐竹氏が慶長九年（一六〇四）から居城とした平山城である。

発掘調査は、秋田中央道路建設事業に伴うもので、調査地区は、外堀に設けられた中土橋と、その東側に

あたる大手門の堀、西側にあたる穴門の堀に及ぶ。調査面積は七十二㎡。

調査の結果、旧中土橋と旧大手門及び旧穴門の堀を検出し、旧中土橋の幅員が一mであることが判明した。また堀の護岸部には、筵のような植物質の織物が細杭で留められていることが確認された。出土遺物には、陶磁器類、かわらけ、瓦などとともに木簡を含む木製品などがある。木製品の中には、斎串、刀形、鳥形、舟形が認められ、中土橋近辺で祭祀が執り行なわれていたと推測される。

木簡は、大手門地区北端第Ⅲ層から三点、穴門地区第一層から一点、出土地不明が一点、計五点が出土した。

8 木簡の釈文・内容

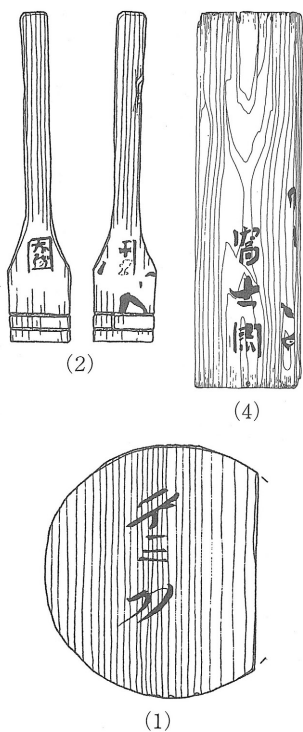
### 大手門地区（北端）第Ⅲ層

(1)  102×(84)×5 061

(2)  133×25×6 061

(3)  (93)×44×7 081

### 穴門地区第一層



(4) □ □  
富士岡

303×(85)×8 061

出土地不明

(5) □

140×55×7 061

(1)は、曲物容器の底板に三文字の墨書が認められる。(2)は、刷毛の両面に小さな墨書が見られる。表面は、文字を方形の墨線で囲む。(3)は、上下両端が欠損している。(4)は、箱状組物の板材であり、右辺を欠損している。(5)は、篋状に整形されているが、釘孔が見られることから箱状組物から転用した可能性がある。

9 関係文献

秋田県教育委員会『久保田城跡・藩校明德館跡』(二〇〇六年)

(高橋 学〈秋田県弘田柵跡調査事務所〉)